

日本顎顔面インプラント学会 ニュースレター

Japanese Academy of Maxillofacial Implants Newsletter 2022.No.8

発行：公益社団法人 日本顎顔面インプラント学会 理事長/嶋田 淳 URL：https://www.jamfi.net/ 2022年7月28日発行

《 巻頭言 インプラントセミナーから日本顎顔面インプラント学会、そしてインプラント歯科専門医へ 》

公益社団法人 日本顎顔面インプラント学会

理事長 嶋田 淳

インプラントセミナーというグループの活動をご記憶でしょうか？ 1990年代に口腔外科界におけるデンタルインプラントの普及を目的として、当時はまだ希少であったインプラント治療を行っている口腔外科施設の有志が集まり、春の日本口腔科学会と秋の日本口腔外科学会の総会の際に、会場の一室をお借りして、今で言う、所謂サテライトセミナーを定常的に行っていたものです。端緒は1994年に愛知学院の主管で名古屋において開催された第39回日本口腔外科学会総会の際に、当時の名古屋大学教授の上田 実先生の発案で、事前に行われた口腔外科施設におけるインプラント症例に関するアンケートに基づいて、再建インプラントに関する他施設共同研究の推進が提案され、いくつかに分類された研究テーマに則って研究の主導施設が決定されたことによる。明海大学歯学部第1口腔外科は、腸骨片におけるインプラント埋入をテーマとしたアンケートの結果それまで17症例を経験して施設間で最多であったことから、この多施設共同研究を取りまとめることになった。その時点では集計された症例数は全国で54例であった。主な結果であるが、インプラントの脱落は架橋骨移植よりもオンレイボーングラフトで多く、その理由は感染であり、また骨移植後6か月までのインプラント埋入と7か月以降のインプラント埋入でインプラントの残存率に有意差があり、6か月以前ではやはり移植骨の吸収と感染が生じ、インプラントが脱落する率が高いことが示された。この名古屋での会議は学術集会の合間に行われ小さな部屋であったが満席で、熱気に満ちており、すでに口腔外科界でもインプラント治療への興味は高まり、拡大する傾向にあったと考えている。以降のインプラントセミナーはこの多施設研究の結果を報告する形で開催されていったが、次第に次回主催者を指名し、その主催者

がセミナーのテーマと演者を構成する様に変化していった。私も落成間もない東京ビッグサイトで、血管柄付き遊離骨移植のインプラント治療のテーマでセミナーを担当させていただき、中規模の部屋であったが、立ち見が出るほどの満席であったことを記憶している。その後セミナーの内容がインプラントから再生医療に変化したのに伴い、数年で自然解消した。このインプラントセミナーを自主的に構成していたのは、それ以前からインプラント治療に積極的にかかわっていた、日本歯科大学 高森 等先生、東京歯科 斎藤 力先生、佐賀医大(当時) 後藤昌昭先生、京都大学 坪井陽一先生、浜松医大 式守道夫先生、昭和大学 大野康亮先生などであり、機会あるごとによく集まって議論していたような記憶がある。このインプラントセミナーは学術団体という確たる地位まで昇華することなく、況してや専門医の輩出などには思いも及ばず、いわば同好会的存在であったが、主導していたメンバーはその後の日本における再建インプラントの発展に大きな役割を果たしたことに異論はないと思う。

これとは全く別にインプラント治療の発展と普及を目指していたグループがあった。日本顎顔面臨床生体材料研究会である。1993年に、日本口腔外科学会のなかで口腔外科領域における生体材料とインプラント治療の必要性を認識していた有志が本会の前身であるこの研究会を立ち上げ、その研究会が発展する形で1997年に日本顎顔面インプラント学会と改名する形でもず一般社団法人として野間弘康理事長のもと産声をあげることになった。その後、瀬戸



皖一理事長の体制に引き継がれ、更なる学会の発展と会員数の増加を目的として、学会発足後10年を経て専門医制度が設立されることになったのである。日本顎顔面インプラント学会専門医が認定されるのは、実際にはその後5年を経てからとなる。インプラント専門医認定のための基盤が未成熟であり、そのため本学会の専門医認定の図式は特殊で、まず日本口腔外科学会認定 口腔外科指導医・専門医保有者を日本顎顔面インプラント学会指導医として認定し、同時に指定研修施設を認定して、その中で日本顎顔面インプラント専門医教育の醸成を図り、漸く日本顎顔面インプラント専門医がスタートすることになった。しかし、この専門医取得のための臨床経験や学術研究履歴の必要要件は妥当なものであるが、専門医取得希望者が履修すべき顎顔面インプラント・広範囲支持型装置等の研修カリキュラムは設定されておらず、また履修する際に参考とするガイドラインや治療指針も、治療内容の特殊性や専門性が高度であるため、未作成の状況にあった。そのような中、日本口腔インプラント学会と共同で推進が図られることになった、いわゆる広告可能なインプラント歯科専門医の取得に向けての活動を背景にして、当時教育研修委員会委員長であった嶋田が理事会において、研修カリキュラムと治療指針・ガイドラインの必要性を提案する機会があり、理事会の満場一致の支持が有りそれらの作成に漕ぎ着けたと記憶している。

当初はエビデンスを有する学術論文を集約して、CQ形式でのガイドライン作成を目指したが、RCS論文は皆無で、またreview論文も殆どなく、caseシリーズが散見されるのみであり、本形式でのガイドラインの作成は困難で、また無理な作成は読者に誤解を与える可能性もあり断念せざるを得ないとの結論に達した。また、同時に顎骨再建インプラント(広範囲支持型装置等)について、集約された教科書や症例集、あるいはマニュアル的なアトラスも皆無であり、日本顎顔面インプラント学会会員が、再建インプラントを施行する際に、手元において参考とできる書籍の必要性を痛感することにもなった。

目次や内容の装丁、頁数など数社の出版社に相談したが、出版部数が商業誌ほどは期待出来ないことから受け入れてくれる機会に巡り会えずにいた。編集委員会において、内容は図表や文言を主体とした治療指針では、筆者の意図が伝わりにくく業績にもなりにくいとされた。その結果、筆者の著作権を重視し業績にもなる症例写真を掲載

する形での書籍とすることで意見が集約され、その案を旧知のゼニス出版の森山氏に相談したところ、大変興味を示していただき、出版の同意を取り付けた次第である。出版に際して最も重要なことは優れた執筆者であるが、経験豊富な編集者も欠くことができない。

まもなく完成する予定のこの「顎骨再建とインプラントによる治療指針」の発刊にあたり、編集委員長の菅野貴浩先生はじめ編集委員会の先生、また貴重な症例写真の提示も含めてわかりやすく説得力のある本文を執筆いただいた執筆陣の先生、用語の統一に尽力いただいた用語用字委員会・雑誌編集委員会の先生、査読校閲をいただいた理事の先生、それに編集と出版に協力いただいたゼニス出版の森山氏に、衷心からの御礼を申し上げる。本書は顎骨再建インプラントの日本および世界における初めてのまた唯一のまとまった書籍であり、顎顔面インプラントを実践する多くのインプラントジストに頻用されることを願って止まない。なお今後、矢郷 香先生を編集委員長とする口腔インプラントのガイドライン(マニュアル)もクインテッセンス出版から発行予定になっている。

仮称インプラント歯科専門医は所謂広告可能な専門医として、厚生労働省が2021年の10月1日施行の改正医療法の中で、歯科における基本10領域の中に含まれることとなり、日本歯科専門医機構による審査と認定を経て発足することになった。現在は日本口腔インプラント学会と共同で、研修カリキュラムや研修方法などについて議論を重ねている。今年度中には申請を提出する予定である。ただ今後、両学会共通の試験制度や試験委員会などを取り決めて行く段階で、日本口腔インプラント学会との意見の隔たりが大きくなり、遅延する可能性も残っている。

ただ、広告可能な専門医の主体は患者であり、患者にわかりやすく、かつ信頼のいただける専門医にすることが不可欠である。従来の批判の多かったインプラント専門医とは隔絶されたインプラント歯科専門医を育てることが最大の目的で、インプラント治療を受ける際に受診する診療所の選択基準となるものとするのが機構のHPでも唄われている。2つのガイドライン・治療指針の作成によりインプラント歯科専門医の教育目標を掲げ、作成中の研修手帳に基づいた研修実績の裏付けと確認、それに基づいて最終的な評価・試験を行う制度を確立することが日本顎顔面インプラント学会の使命であると考えている。

CONTENTS

《 巻頭言 インプラントセミナーから顎顔面インプラント学会、そしてインプラント歯科専門医へ 》	1
《 各種委員会報告 》	4
広告のできる専門医推進委員会、専門医制度委員会、専門医資格認定審査会、研修施設資格認定審査会、 定款(会則)検討委員会、総務広報委員会、雑誌編集委員会、渉外委員会、社会保険委員会、薬剤関連調査委員会、 学術委員会、医療委員会、財務委員会、診療マニュアル作成委員会、賛助会員制度促進委員会、 脱タバコ社会実現委員会、診療ガイドライン作成委員会、倫理委員会、研修カリキュラム委員会、教育研修委員会、 用字用語委員会	
《第25回 日本顎顔面インプラント学会総会・学術大会の報告》	13
《20th Annual Meeting of Asia Pacific Implant Society (20th APIS) の報告》	14
《第47回 日本顎顔面インプラント学会教育研修会の案内》	14
《第26回 日本顎顔面インプラント学会総会および学術大会の案内》	15
《第3回SASOMI (南アジア顎顔面インプラント学会) の案内》	16
《2022年、2023年インプラント関連学会案内》	16
「常置委員会・委員長・委員」一覧	17
「賛助会員」一覧	18
事務局からのお願い	18
編集後記	20

《 各種委員会報告 》

広告のできる専門医推進委員会、専門医制度委員会、専門医資格認定審査会、研修施設資格認定審査会、定款（会則）検討委員会、総務広報委員会、雑誌編集委員会、渉外委員会、社会保険委員会、薬剤関連調査委員会、学術委員会、医療委員会、財務委員会、診療マニュアル作成委員会、賛助会員制度促進委員会、脱タバコ社会実現委員会、診療ガイドライン作成委員会、倫理委員会、研修カリキュラム委員会、教育研修委員会、用字用語委員会

◎ 広告のできる専門医推進委員会

広告のできる専門医推進委員会 委員長 瀬戸 皖一

広告できるインプラント歯科専門医実現に向けての温故知新

1965年P.I.Brånemarkによるosseointegration理論に欧州の口腔顎顔面外科、歯周外科などの専門家が刺激され、スウェーデン、スイスなどの精密工業と結びついて産学共同開発の歯科インプラントシステムが確立して瞬く間に世界の歯科界に人工物による歯の再建が急速に浸透したのが1970～80年代でした。この頃日本の歯科教育機関はこの欧州発の新しい再建システムにやや懐疑的で定着せず、眼科領域における眼内レンズの受け入れとは対照的でありました。その一方でこの画期的なシステムは自費診療マインドと結びつき、地域医療診療機関の間で急速に普及され、1986年に設立された日本口腔インプラント学会の会員数は瞬く間に歯科界最大の学会にまで急成長されました。

しかしその反面インプラント診療における事故、トラブル数が急増し、自由診療なので臨床の質的標準化が十分でなく、今世紀に入ってから毎年のように市民団体、メディアからインプラント診療が標的となって叩かれるようになりました。そこで1997年口腔外科を専門とする有志により日本顎顔面インプラント学会が設立されました。もともと口腔外科領域では欧州顎顔面外科学会と密着してインプラント開発に加わり、口腔がん手術後の再建、外傷、唇顎口蓋裂、顎変形症手術に応用して大きな成果を挙げておりました。

やがて2002年専門医制度が日本で発足して間もなく、歯科では最初に広告可能な「口腔外科専門医」が認可されました。この時厚労省から「今回発足した専門医制度は、あくまでも患者さんのためです。学会や医療機関の権威付けや宣伝に使わないでください。」と繰り返し念を押されたことが印象深く記憶に残っています。日本顎顔面インプラント学会では当然口腔外科専門医修練の一環として厳しいトレーニングが展開され、インプラント歯科医療が保険収載され、国民医療となるこ

とを着々と推進して参りました。

両学会の教育コンセプトには隔たりがあるのですが、患者さんにとっては当然優れたサイエンスとスキルを兼ね備えた専門医に診てもらいたいと願うのみでありましょう。そこで2017年7月本学会は専門医申請の前に日本口腔インプラント学会に対して広告可能専門医認定を合同で申請しようと呼びかけました。当時の渡邊文彦理事長の同意が即座に得られるとは正直思いがけないことでした。そして厚労省筋の反応も「それならば認定に向けて積極的に検討しましょう。」とのポジティブな対応を頂戴し、共通名称専門医制の導入に向けて両学会連携の絆が成立したことに喜びを分かち合いました。

そして2019年歯科では初めての本格的な第三者機構として日本歯科専門医機構が生まれたわけです。同年厚労省は歯科専門医機構に厚労委託事業として専門医評価認定を委託して今日に至っています。さらに2021年7月に厚労省、医科ならびに歯科専門医機構が一堂に会して合意が得られ、同年10月1日専門性の広告に関する医療告示の一部改正が適用され、厚労大臣の告示により日本歯科医療専門医機構が認定する専門医の広告が可能になりました。爾来既存の広告可能な歯科専門医を含めて認定制度設計が公的に委託されたと解釈されます。

機構成立前からインプラントに関わる2つの専門学会は既に連携合意がなされているので、「インプラント歯科専門医」は真っ先に成立するであろうと多くの関係者はやや楽観的にみられていたかも知れません。しかし今井 裕理事長は就任冒頭に両学会に対して「専門教育研修過程に不透明な部分があり、両学会の間での整合、標準化も未だなされていない。」と鋭く指摘されました。特に日本口腔インプラント学会に対しては「リスクの高い臨床現場において的確に判断実行するためにはOJT (on the job training)が必須であるが、それを十分にやっていないのではないか、専門医の育て方が不透明。」との疑問が投げかけられ、本学会に対しては「口腔外科専門医を育成する傍ら、インプラント歯科専門医を育成するのは難しくはないか、特に普通の開業医において行うインプラント研修に関わる症例数が少ないのではないか。」との疑問であります。いずれも極めて重要な指摘です。

本学会は直ちに全国に展開する医学部、歯学部、ならびに総合病院歯科口腔外科あるいはインプラント科における教育研修施設の実態を調査し、再編、再整備を行いました。その一方で国際歯科医療安全機構を機動して、口腔外科、歯科麻酔、歯科放射線、歯周病専門医などの協力を得て患者安全、感染拡大防止、医療事故対策など、歯科医療教育全般の弱点を補うため包括的、基礎的な研究開発を重ねているところです。もとより医科医療と同じ標高で連携して役割を分担する歯科医療の専門医制度を構築するのは容易ではありませんが、これが真の医歯二元制を最終的に確立する鍵となるであろうかと思われま

す。本年3月に日本歯科専門医機構は歯科医療の専門性に関する協議・検証事業と題する報告書を公表し、6月16日、定時社員総会にて役員改選が行われ、今井 裕理事長の続投が確定しました。専門医制度が日本に発足して20年にも届くほど遅れていた歯科医療における専門医の評価認定に関わる第三者機構を発足させた住友雅人先生の英断に深い敬意を表するとともに、純粋な情熱を傾けて歯科医療の中に専門医制度を定着させることに専念されている今井 裕先生の新たな活動に限りなく期待しております。

今世紀初頭わが国に専門医制度が施行されて以来、国は既存の実績ある専門学会を信頼して、各分野における専門医認定の責務を各専門学会に委ねておりました。今回の改革では専門医を育てるのは学会に任せるが、専門医の認定は第三者機構の判断に委ねるといふシステムに変更されたと解釈されます。この新しい制度設計が真に国民にわかりやすい、また国民に信頼される医療教育研修システムとして定着することを念願し、各学会は精一杯協力するべきであろうと嚮を並べているところです。現今歯科医療が国民からの信頼を失いつつあるなかで、今回の新しい専門医評価認定制度が国民からの信頼回復への起爆剤となることを願っております。

本委員会ではインプラント歯科専門医の人材育成に関して以下のようなプロセスを具体的に想定してとり組みたいと考えています。

- 1) 本学会と口腔インプラント学会は共通カリキュラムならびに試験システムを慎重に共同で整備し、専門医機構より客観的評価を受ける。
- 2) 上記システムに則ってOJTを含む人材育成を両学会の責任において実行し、専門医機構によりその過程が円滑に運行されていることを確認していただき、両学会から提出した専門医候補者の妥当性を判断された上で、各専門医が認定される。

しかし現状ではインプラント診療における事故、トラブル数が依然として多く、自由診療なので臨床の質的標準化が十分でなく、誇大広告の規制もままならない実態が国民の認識のなかで定着している現実から出発しなければならないのが実

情です。そのためには両学会員の相互信頼に基く倫理理念の共有を含む緊密な交流が前提となることでしょう。

今井 裕理事長から再三提示されているキーワードは①教育研修施設におけるOJTの実行、②プロフェッショナルオートノミーによる課題解決であります。これらはいずれも原点に帰って問題点を共有し、両学会の謙虚な連携と協力、それに役割の分担により解決できないことはないと思っています。最も重要な課題であるOJTを含む教育研修のあり方については、大学、病院ならびに一般診療所それぞれの教育研修体制の位置づけと整合がポイントでありましょう。いま専門医機構主導で両学会のワーキンググループにより着々と原案が積み上げられている過程ですが、複数の学会がひとつの専門医を創るモデルとなるような名案が提出されることを期待しております。それは偏に患者さんの身になって考えれば自然に答えがでけると信じています。OJTと医療理念の共有は不可欠ですが、両者の協力と相互理解による適切な役割分担により十分克服可能と見ています。何よりも今WGから提出されている研修カリキュラム案を公開で徹底的に検討し、専門医機構の適切な指導の下に良い結果が早急に出されることを期待して止みません。

去る6月24日「広告できる専門医推進委員会」が開かれました。長時間にわたって今後の推進方針について出席委員各位より多岐にわたるご意見が吐露されましたが、破壊的な意見は最後まで出ませんでした。患者さんにわかりやすい、患者さんの機能寿命を遷延させる、そして患者さんに生涯感謝される良心的なインプラント医療人を育成して質的向上を図ることを当面の目標として邁進することに変更はありません。我々は一貫して専門医機構の指導的介入を快く受け、積極的に協力します。我々は文字通り国民目線で優れたインプラント名医を育て上げることを目標とし、インプラント医療を国民医療の枠組みの中に入れ、医療水準の向上を世界に発信することをめざして進むことを誓います。患者さんは良質で安全なインプラント医療を推進する専門医を切望しています。

以上ニュースレターの紙面をお借りして専門医申請の経緯と将来に向けての展望を委員会から発信させていただきました。会員各位から直接忌憚ないご意見をお寄せいただければ有難く、それらを委員会の羅針盤の中に溶け込ませていただきます。

◎ 専門医制度委員会

専門医制度委員会 委員長 高森 等

現在進めている『広告のできる「インプラント歯科専門医」』には、研修施設や研修内容についていくつか見直しが求められていることから、現状を把握することを目的にアンケート調査を2021年4月に行いました。調査結果は(一社)日本歯科専門医機構(以後機構)との会議資料として使用しました。また、第25回日本顎顔面インプラント学会総会・学術大会(12月11日、名古屋)において概要を報告しました(抄録集144頁参照)。しかし、機構との会議で提出したアンケート調査のうち治療実績は2020年度(2020年4月1日から2021年3月31日)までのもので、この期間は新型コロナ感染による緊急事態宣言が長期にわたり発令された時期であり、インプラント治療を希望する患者が減少していた可能性が指摘されました。そこで新型コロナ感染が蔓延する以前の2018年度、2019年度の2年間の治療実績と比較する必要があるため、9月に再度インプラント治療実績についてアンケート調査を行いました。88研修施設において2020年度のインプラント埋入手術症例数は2018年度と2019年度に比べていずれも約24%減少、骨造成手術症例数は2018年度に比べ約12%減少、2019年度が約13%減少、インプラント関連トラブル症例数は2018年度に比べ約39%、2019年度が約36%減少していました。

・認定関係について

2022年1月25日現在、専門医制度委員会が書類審査する2022年度新規指導医申請者は1名で合格と判定しました。更新申請書提出が保留扱いとなっていた2021年度専門医と指導医更新対象の1名は合格と判定しました。2022年度更新対象(2017年4月1日～2022年3月31日)の専門医、指導医、研修施設、准研修施設は、専門医19名中18名を合格と判定、1名を書類不備で再提出、指導医17名中12名を合格と判定、1名を書類不備で再提出、研修施設13施設中7施設を合格と判定、1施設を書類不備で再提出、2施設が辞退、准研修施設7施設中2施設を合格と判定、3施設を書類不備で再提出と判定しました。2022年度更新の指導医は対象17名中4名、研修施設は対象13施設中3施設、准研修施設は対象7施設中2施設が未提出です。該当の専門医、指導医、研修施設、准研修施設は更新申請書の提出を早急にお願いします。更新申請書が提出できない場合は理由書を事務局に提出してください。

2023年度各種申請書の提出締め切りは2022年8月末日となっていますので、ホームページの「申請書作成に際しての注意事項」を参考に2022年4月以降のホームページに載せてある申請書を使用して提出してください。

研修施設において代表常勤指導医が退職などのため不在となり更新ができないあるいはできなくなる可能性のある施設が110施設中9施設あることが判明、メール等で確認した結果、2022年3月31日現在5施設が取り消しとなり、4施設は暫定指導医申請を行う予定があるため保留としました。

准研修施設においても昨年4月に行ったアンケート調査で

常勤指導医あるいは専門医が退職し不在の施設が25施設中14施設あることが判明しました。現在常勤指導医、専門医が不在の准研修施設更新は認めていないことから2年間の猶予期間を与え、その間に暫定指導医を取得してもらうこととなりました。

研修施設代表常勤指導医や准研修施設代表常勤指導医あるいは常勤専門医は退職や移動する場合は、事務局にその旨を連絡し、つぎの代表者に引継ぎを必ず行ってください。

・専門医制度施行細則の一部改訂について

専門医と指導医(60歳未満)の資格更新に際し、施行細則第34条2)に下線部「更新日までの5年間に本学会学術大会で1回以上発表し、本学会学術大会に2回以上と本学会主催を含む教育研修会に2回以上参加しなくてはならない。」を追加しました。本学会学術大会における発表は共同発表でも構いません。このことに関して、今回の更新では猶予期間として今後3年間(2026年3月31日まで)の本学会学術大会での発表を認めることになりましたので、不足の場合は申請書提出時にその旨を記載した一文を付けてください。また、施行細則を一部改訂したため専門医と指導医(60歳未満)更新申請書の一部を改訂しました。

・研修施設・准研修施設の活動報告書の提出について

2021年4月に行ったアンケート調査により、本学会研修施設・准研修施設所属の本学会専門医、指導医、診療実績、研修などの現状と問題点が浮かび上がりました。しかし、単年度だけの調査では正確な現状を把握できないことが判明したため、今後も毎年、研修施設・准研修施設の活動報告書の提出をお願いすることになり、施行細則第35条と第36条に明記しました。また、本学会からの例えば「インプラント手術関連の重篤な医療トラブルについて」などのアンケート調査等の回答をより確実にするために、同様に施行細則第35条と第36条に明記しました。なお、2022年度は規則改訂施行日が2022年2月10日のため「活動報告書」とはせず「公益社団法人日本顎顔面インプラント学会研修施設・准研修施設活動アンケート(2021年度)」としました。ご協力をお願いいたします。

◎ 専門医資格認定審査会

専門医資格認定審査会 委員長 福田 雅幸

専門医資格認定審査会では、2022年度は6名の専門医新規申請者に対して書類審査を行いました。2022年2月6日に2021年度受験者9名と併せて15名に対して筆記および面接試験を予定しましたが、COVID-19第6波の拡大を鑑み延期しました。受験する先生方には、度重なる延期で大変ご迷惑をお掛けしました。対面式ではないWeb試験などのシミュレーションも行いましたが、費用や不正防止の観点から断念しました。第6波の収束後速やかに試験を行うこととし、6月19日にTKP東京駅日本橋カンファレンスセンターで行いました。この原稿が掲載される頃には合否が判定されている予定です。

本学会専門医取得のためには、インプラント治療に関する経験が30症例以上必要で、その他骨造成手術や全身管理に関する報告、論文や学会での発表などの業績が必要です。残念ながら、毎年多くの申請書類に不備があります。最新の専門医制度規則と専門医制度施行細則を熟読の上、余裕をもって申請書類をお送りください。

◎ 研修施設資格認定審査会

研修施設資格認定審査会 委員長 日比 英晴

5名で任にあたっています。2021年度に申請があったのは研修施設として1件でした。資格認定審査の結果、適格であると判定し、専門医制度委員会に答申いたしました。なお准研修施設の申請資格は、本学会指導医または専門医が1名以上常勤し十分な指導体制がとられていることを要する(専門医制度規則)、准研修施設の施設長は他の准研修施設長と重複はできない(内規)とされていますのでご注意ください。

◎ 定款(会則) 検討委員会

定款(会則) 検討委員会 委員長 福田 仁一

2021年度の活動報告はありません。

◎ 総務広報委員会

総務広報委員会 委員長 又賀 泉

総務広報委員会は、今年も委員長又賀 泉、副委員長矢郷 香先生、宮本郁也先生、石垣佳希先生、小林正治先生で委員会を構成してきました。本委員会の主な業務内容は事務局の運営に協力し本学会が円滑に運営されることに協力する総務としての業務に加えて広報活動で、とくに昨年より今年にかけてはCOVID-19のパンデミックにより、理事会や常置委員会の情報交換が電子情報の交換で、理事会や委員会もすべてzoomで開催してきましたが、face to faceで行う生の意見交換ができず、またどうしても意見が一方通行になりがちで時間にも制約されましたが、利点は交通費や宿泊費などの委員会経費が節約されたことでしょうか。

5月を迎え例年発行していますニュースレター発行の時期がきました。今回は8号を数えますが、紙媒介だけでなくhome pageにも掲載する予定で準備しています。昨年同様副委員長矢郷 香先生を中心に、今年は新委員の宮本郁也先生が原稿収集と編集を行ってくれています。常置委員会活動や学術大会および教育研修会記事の掲載を予定していますが、電子ニュースレターの掲載価値も高く、今後委員会委員も増やして会員のための自由な情報源として会員の意見も投稿していただき、ニュースレターを通じて学会の充実をさせたいと考えていますので何卒よろしくご協力をお願いします。

◎ 雑誌編集委員会

雑誌編集委員会 委員長 野口 誠

本年1月より、電子投稿が開始しました。投稿から査読までの効率化を目的とし、これによって委員会と著者とのやりとりがスムーズにいくことが期待されます。ただし、定時の委員会は年3回としていますので、新規投稿の場合、投稿のタイミングによっては、初回の査読結果が届くまでに時間を要することがあります。ご了承のほどお願いいたします。

本委員会の「査読の基本方針」について、いま一度確認しておきたいと思います。

1. 日本顎顔面インプラント学会誌は、歯科インプラントのみならず、顎顔面領域の形態または機能回復に用いられる生体材料に関する基礎的、臨床的テーマを広く扱います。投稿論文の内容が本誌の趣旨に照らして、掲載するにふさわしいか否かを判断します。
2. 新規性について
臨床研究ならびに基礎研究は新規性または独自性がもめられます。症例報告は、明らかな新規性あるいは希少性がみられなくても、報告例の集積に意義を見出せると判断できるものは、採用を検討します。また、「症例報告」での掲載が不相当と考えられるものでは、「その他、資料」としての掲載を検討します。
3. あくまで著者の「主張・論点」を尊重しますが、それを裏付ける論拠が乏しいと考えられる場合には、表現法の変更あるいは「主張・論点」の再考を勧めることがあります。
4. 図表についても、あくまでも著者のオリジナルを尊重しますが、本文中の説明または解釈からして、相応しくないと判断されるものに対しては、理由を付して改変を勧めます。症例報告における写真は、鮮明で、論文の趣旨に相応しいものかを判断します。
5. 文意を取りづらい箇所があれば、それを指摘し、加筆修正を求めることがあります。

以上の「査読の基本方針」を踏まえて、論文の作成、投稿をお願いします。

査読に関する変更点があります。これまで、新規投稿時は、投稿いただいた論文すべてを、ただちに3名の編集委員が査読作業を進めることになっていました。投稿論文のなかには投稿規定に従っていないなどの不備がみられることがあります。このため、委員による査読作業の前に、編集委員長による「査読前審査」をし、不備が多い場合には、ただちに一時返却させていただき、加筆・修正等をお願いすることがあります。何卒、ご理解のほどお願い申し上げます。

◎ 渉外委員会

渉外委員会 委員長 高橋 哲

PPISからAPISへ:本学会会員の積極的な参加を!

これまで韓国、中国、日本、台湾が持ち回りで開催し、近年日本が主幹となって活動してきた環太平洋インプラント学術集会(PPIS:Pan Pacific Implant Society)は、インドが加わったことによりその名称をアジア太平洋インプラント学術集会(APIS:Asia Pacific Impalnt Society)に改名し、改名の時期は2022年2月に韓国ソウル市でwebinarとして開催される第20回記念大会からAPISとなりました。その第20回記念大会は2022年2月19日に、Samsung Medical CenterのDr. Jung-Yang Paengが大会長で、大韓口腔外科学会(Korean Association of Oral and Maxillofacial Surgery)の”Winter Implant Focus Meeting”と共催で完全web開催されました。今回のメインテーマは”computer-assisted implant dentistry”で、シンポジウムとして”computer-assisted implant surgery”、”computer-assisted implant prosthesis”、”APIS International Expert Session”の3つにそれぞれに日本からのシンポジストとして島根大学の管野貴浩先生、東北大学の依田信浩裕先生、本学会理事長の嶋田 淳先生が講演され、また活発なdiscussionが繰り広げられました。また同日役員会(council meeting)が開催され、2023年は中国が主管で3月に開催されることが決まりました。開催方法は未定で、またCOVID-19の状況にもよりますが、できれば現地開催という方向で準備するということでした。場所については西安が候補として上がっているそうです。大会長はpresident-electのDr. Wang Huimingです。また第22回の大会はインドのバンガロール(Bangalore)で、2024年、2月か3月に予定されているとのこと。また毎年開催されているAPISのWinter Meetingですが、今回も2022年11月26、27日に東京医科大学の近津大地先生が大会長で開催予定の第26回本学会学術大会の併催として開催予定で準備中です。

APISは日本が主導をしてアジア・太平洋の各国の情報発信基地になるべく、これからも前進していくつもりですが、2月のAPISの日本からの参加人数もあまり多くなかったようです。本学会会員の皆様のAPISへの積極的な参加のほどよろしくお願い申し上げます。

◎ 社会保険委員会

社会保険委員会 委員長 河奈 裕正

令和4年度診療報酬改定が厚生労働省より通知され、4月1日より適用されました。本学会に関わる主な改定は以下のとおりです。

・「画像等手術支援加算の対象手術の見直し」において、広範囲顎骨支持型装置埋入手術が「ナビゲーションによるもの」の対象手術となりました。

・広範囲顎骨支持型装置埋入手術の対象患者が、以下の下線部のように明確となりました。

「当該手術は、次のいずれかに該当し、従来のブリッジや有床義歯（顎堤形成後の有床義歯を含む）では、咀嚼機能の回復が困難な患者に対して実施した場合に算定する。

イ 腫瘍、顎骨髄炎、外傷等により、広範囲な顎骨欠損若しくは歯槽骨欠損症例（歯周病及び加齢による骨吸収を除く）又は、これらが骨移植等により再建された症例であること。なお、欠損範囲について、上顎にあつては連続した4歯相当以上の顎骨欠損症例又は上顎洞若しくは鼻腔への交通かが認められる顎骨欠損症例であり、下顎にあつては連続した4歯相当以上の歯槽骨欠損又は下顎区域切除以上の顎骨欠損であること。

ロ 医科の保険医療機関の主治の医師の診断に基づく外胚葉異形成症等又は唇顎口蓋裂等の先天性疾患であり、顎堤形成不全であること。

ハ 医科の保険医療機関の主治の医師の診断に基づく外胚葉異形成症等の先天性疾患であり、連続した3分の1顎以上の多数歯欠損であること。

ニ 6歯以上の先天性部分無歯症又は前歯及び小臼歯の永久歯のうち3歯以上の萌出不全（埋伏歯開窓術を必要とするものに限る）であり、連続した3分の1顎程度以上の多数歯欠損（歯科矯正後の状態を含む）であること。

・広範囲顎骨支持型補綴の対象患者は、改定後の広範囲顎骨支持型装置埋入手術の対象患者と同等となります。

・広範囲顎骨支持型補綴（ブリッジ形態のもの）におけるリテイナー300点が新設されました。ただし、これには算定要件があり、「広範囲顎骨支持型装置埋入手術を行った場合であつて、ブリッジ形態の広範囲顎骨支持型補綴を行うものに対して、リテイナーを製作し用いた場合に算定する。当該部位に係る手術を行った日（2回法の1次手術を除く）からブリッジ形態の広範囲顎骨支持型補綴を装着するまでの期間において、1装置につき1回に限り算定する。特定保険医療材料料はスクリーン、アバットメント及びシリンダーに限り、別に算定する」とあります。

なお、改定の概要は、厚生労働省保険局医療課のウ

ェブサイト

<https://www.mhlw.go.jp/content/12400000/000922373.pdf>でご覧いただけます。

今回改定に際し、令和3年度初めにご協力いただきましたアンケート結果を基に作成した本学会提案書は、幾つかの改定に影響があったものと思われます。皆様のご尽力に心から感謝申し上げます。一方、下顎無歯顎に対するインプラント義歯や、広範囲顎骨支持型装置埋入手術における「患者適合型手術支援ガイドによる」画像等手術支援加算の申請が通過しませんでした。2年後の改定に向けて、鋭意努力してまいりたいと思いますので、引き続きご協力いただきますようお願いいたします。

◎ 薬剤関連調査委員会

薬剤関連調査委員会 委員長 松尾 朗

2021年度の活動報告はありません。

◎ 学術委員会

学術委員会 委員長 加藤 仁夫

現在、学術委員会は委員長 加藤仁夫、副委員長 佐藤淳一、植野高章、岡本俊宏、河奈裕正、城戸寛史、関根秀志、高橋 哲、矢島安朝の9名で任にあたっています。

3年毎に行われている「インプラント手術関連の重篤な医療トラブルアンケート調査」の4回目（2018年1月1日～2020年12月31日）を各研修施設に依頼しましたところ多くの施設から回答が寄せられました。現在調査結果をまとめているところです。各施設の先生方のご協力に大変感謝しております。

2021年度第25回顎顔面インプラント学会学術大会における最優秀発表賞（大会長賞）は東北大学大学院歯学研究科顎顔面・口腔外科学分野森浩允氏が受賞されました。演題は「インプラント治療を行った複数の先天欠損歯症例に関する臨床的検討」で、授賞式は2022年11月に行われる第26回顎顔面インプラント学会学術大会総会で行われます。

本学会元幹事赤坂庸子先生が若手研究者のために私財を拠出して設立した赤坂庸子若手研究奨励基金の運用が開始されました。本学会正会員で満40歳を超えない研究者を対象に支給されます。2021年度の応募者は8名で、赤坂庸子若手研究奨励基金運用委員会が審査し、そのうちの1名が受給される予定です。現在審査中ではありますが、すべて素晴らしい研究テーマならびに研究内容です。2022年度の募集期

間は2023年1月から同年3月31日までですのでご準備のほどよろしくお願いいたします。なお、日本顎顔面インプラント学会赤坂庸子若手研究奨励基金規程ならびに内規は学会ホームページに掲載されておりますのでご一読ください。

第7回歯科再生医療推進ネットワーク協議会議が2022年1月に開催され、歯科再生医療に関わる問題は日本再生医療学会が取りまとめ役を行い、歯科医学会とも連携を取ること、歯科全体の諸問題と整合性をとっていく方向で合意した。今後臨床で応用しやすいようにPRP等の取り扱いについても検討していく予定です。

◎ 医療委員会

医療委員会 委員長 藤井 俊治

医療委員会が作成した国際インプラント手帳は広告可能なインプラント歯科専門医がスタートすれば治療行為の一環として提供しなければならない必須のアイテムとなります。

日本顎顔面インプラント学会の専門医は10年ほど前から認証が開始され、現在は70名を超える専門医が認証されています。その間に専門医制度は年々充実し、広告可能なインプラント歯科専門医に対応した研修カリキュラムも作成中です。国際インプラント手帳は、インプラントに関する治療歴を患者さんが把握できるだけでなく、その後患者さんが受診する医療機関の医療データとして大変重要な役割を果たすことから、今後は医科で一般化したお薬手帳のようにインプラント治療に携わった患者さん全員に提供しなくてはならない医療情報となります。広告可能なインプラント歯科専門医の研修カリキュラムが最終的にできあがった時点で、再度修正を行う予定です。

また、COVID-19に関する感染症対策特別委員会の窓口は医療委員会が行っていることから、2022年2月12日に国際歯科医療安全機構が開催した新型コロナウイルス感染対策セミナー参加のインフォメーションを行いました。歯科医療機関からは1~2例のクラスターが発生している程度に留まっていますが、感染力の高い変異種が多数出現しています。感染爆発のピークは過ぎたとの見方がありますが、世界的な感染動向がまだ不透明なことから顎顔面インプラント学会として今後の対策も検討していく予定です。

◎ 財務委員会

財務委員会 委員長 長尾 徹

財務委員会は久保田英朗前委員長から引き継ぎ、又賀泉副委員長、以下佐藤淳一、矢郷 香、小倉 晋、黒岩裕一郎の各委員とともに任にあたっています。財務状況は、2021年度決算では新型コロナの影響でweb会議などを利用することにより経費削減ができ黒字でした。今後も削減できる部分は削減し、その経費を公益社団法人として新しい公益事業に投入していく予定です。また、年会費の納入状況が相変わらず良くありません。事務局からのお知らせにも記載していますが納入が滞らないようご協力をお願いいたします。

◎ 診療マニュアル作成委員会

診療マニュアル作成委員会 委員長 矢郷 香

新たに「インプラント歯科専門医(仮称)」が日本歯科専門医機構で認証される予定となり、現在、日本歯科専門医機構仲介の下、日本顎顔面インプラント学会と日本口腔インプラント学会で教育研修カリキュラム等について話し合いが行われています。専門医取得のためには新たな専門医試験に合格する必要があります。本学会では、研修カリキュラム手帳が作成されていますが、インプラント治療に関するマニュアル本がないので、日本顎顔面インプラント学会編で「インプラント歯科専門医実践マニュアル(仮)」を作成することになりました。そのため、アドホックの委員会ですが、診療マニュアル作成委員会の設置が理事会で承認されました。

矢郷が委員長を仰せつかり、編集委員には、河奈裕正先生、木津康博先生、藤井俊治先生、丸川恵理子先生が任命されました。

マニュアル本は、クインテッセンス出版株式会社から出版することになり、2021年10月12日に第1回編集委員会を開催致しました。現在、本の内容の検討および執筆者を選任中です。

今回、マニュアル本の執筆は、主に、本学会専門医資格を持つ先生方をお願いすることになりました。インプラント歯科専門医を目指す歯科医師が、マニュアル本で学習し専門医を取得し、国民が安心してインプラント治療を受けられるような本を作成したいと思いますので、ご協力のほど宜しくお願いいたします。

◎ 賛助会員制度促進委員会

賛助会員制度促進委員会 委員長 高橋 哲

嶋田 淳先生が理事長に就任後、賛助会員制度促進委員会の委員長であった嶋田先生に代わりこの大役を任されている高橋です。本学会の活動の基盤の一つとして賛助会員制度を設け、顎顔面インプラント事業をご展開される各企業を中心にご入会いただいておりますが、ここ2年ほどCOVID-19の影響で多くの歯科関連の学会が現地開催ではなくWeb方式ないしハイブリッド方式となり、なかなか企業からの協賛が得られにくいこともありましたが、しかしデンタルインプラントのみならず関連した製品の開発、医療現場への供給等に直接携わる各企業からのご支援は、歯科医学の発展を通じた国民医療の充実や医薬品産業の発展における重要な役割を担うとともに、公益社団の学術団体である本学会の運営において必要不可欠な要素であると思っております。本学会の賛助会員制度ではまだまだ入会している企業は少ないですが本学会では国民医療を目指したデンタルインプラントの普及のため、地道に賛助会員を増やそうと思っております。会員の皆様にも参加して下さる企業を紹介していただきますよう、よろしくお願ひ申し上げます。具体的に企業をお教えいただければ私が直接交渉させていただきます。下記のメールアドレスまでお願いします。
tetsu@dent.tohoku.ac.jp

◎ 脱タバコ社会実現委員会

脱タバコ社会実現委員会 委員長 長尾 徹

1. 日本学術会議市民公開シンポジウムは第25回日本顎顔面インプラント学会学術総会が共催、口腔9学会合同脱タバコ社会実現委員会が後援という形で、2021年12月12日にハイブリッド形式で開催しました。
シンポジウム名：「口腔疾患の予防・治療・保健教育の場の喫煙防止・禁煙支援指導などの喫煙対策の場として活用すべきである」
講演1：村上伸也（日本学術会議連携会員、大阪大学大学院歯学研究科教授）
「喫煙防止・禁煙指導における歯科と医科の連携；日本学術会議からの提言案の紹介」
講演2：長尾 徹（愛知学院大学歯学部顎顔面外科学講座教授）
「口腔9学会の多施設禁煙介入研究（日本歯科医学会プロ

ジェクト研究+科研費基盤研究)の成果」

講演3：稲垣幸司（愛知学院大学短期大学部歯科衛生科教授）

「歯科外来における禁煙支援の役割」

講演4：中村正和（公益社団法人地域医療振興協会 ヘルスプロモーション研究センターセンター長）

「研究成果を制度につなげる—学術団体としての役割」

現在学会HPの「お知らせ」から以下に公開中です。

<https://www.jamfi.net/seminar.html>

是非ご覧ください。

2. 口腔9学会合同脱タバコ社会実現委員会は、加熱式タバコに関する注意喚起「新型タバコ、特に加熱式タバコに関する注意喚起」を2022年1月付けで各学会に配布しました。また、2022年1月25日、日本歯科新聞に加熱式タバコに関する意見広告を掲載しました。

3. 本委員会が中心になって運営している口腔9学会合同脱タバコ社会実現委員会にジャパンオーラルヘルス学会（山根源之理事長）が加入され10学会となりました。6月から実際に活動参加の予定です。

4. 口腔9学会合同脱タバコ社会実現委員会は2022年度ファイザープロジェクトの教育プログラム研究助成に応募しました。

◎ 診療ガイドライン作成委員会

診療ガイドライン作成委員会 委員長 管野 貴浩

現在常置委員会の1つとして委員長を仰せつかり、柳井智恵副委員長、福田雅幸先生、堀江伸行先生、立川敬子先生、又賀 泉先生、小山重人先生の7名で任に当たらせていただいております。本学会としての広範囲顎骨支持型装置治療を中心とした診療指針である、「顎骨再建とインプラントによる治療指針；広範囲顎骨支持型装置治療マニュアル」の最終校正作業を、われわれの委員会に加え用字用語委員会（松尾 朗委員長）、雑誌編集委員会（野口 誠委員長）との3委員会合同にて鋭意進めております。インプラントジャーナルと歯科専門書籍を展開するゼニス出版からまもなく発刊をいたします。本学会の先生方には、本年11月に開催されます第26回の学会総会・学術大会（東京医科大学 近津大地大会長）までには、本学会初の治療指針を御手に取っていただけますものと存じます。

◎ 倫理委員会

倫理委員会 委員長 福田 仁一

2021年度は2回メール会議を行いましたので報告します。

2021年3月26日、専門医制度委員会から「(公社)日本顎顔面インプラント学会研修施設に対するアンケート調査」の倫理審査申請書が提出されましたのでメール会議を行い、4月8日付けで「承認する」との審理審査結果報告を出しました。

2021年8月3日、学術委員会から「インプラント手術に関連する重篤な医療トラブル実態調査」の倫理審査申請書が提出されましたのでメール会議を行い、8月12日付けで「承認する」との審査結果報告を出しました。

本学会の研究倫理規則に係ることですので報告いたしますが、文部科学省、厚生労働省、経済産業省が「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」及び「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」については、必要に応じて見直しを行うものとされており、3つの省による「医学研究等に係る倫理指針の見直しに関する合同会議」において両指針間の項目の整合性や指針改正の在り方について検討を行い、「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」を2021年3月23日官報に告示し、6月30日から施行しています。このことによって本学会の研究倫理規則の第2条(倫理指針等の尊重)の(1)、(2)については統合されることになりました。

◎ 研修カリキュラム委員会

研修カリキュラム委員会 委員長 藤井 俊治

インプラント治療を希望する患者さんやインプラント治療でお困りの患者さんが安心して、安全に治療を受けられるよう、安心安全を担保したインプラント歯科専門医を育成するための研修カリキュラムを作成しています。現在は日本歯科専門医機構、日本口腔インプラント学会の担当者と毎月ワーキンググループ会議を開催して両学会が同一基準で研修を受けられるように日本顎顔面インプラント学会で作成した研修カリキュラム手帳の修正、申請症例単位表の作成、共通カリキュラム評価表の作成を行っている段階です。日本歯科専門医機構の意向や日本口腔インプラント学会との合意事項に対応して、専門医制度や研修施設を再整備する必要があるため、作業は難航しておりますが、各研修施設で、常勤指導医、上級医によるOn the Jobが可能となるように修正して新たな専門医育成のための研修カリキュラムを完成させる予定です。

◎ 教育研修委員会

教育研修委員会 委員長 矢島 安朝

第44回教育研修会は、名古屋大学日比英晴教授を実行委員長として2021年8月29日ライブ配信、9月2日・4日録画配信によってWEB開催されました。「医療安全の基本をおさえる」をメインテーマに掲げ、6講演が行われ合計159名が受講されました。ありがとうございました。口腔四学会合同研修会は、日本口腔外科学会専門医制度研修カリキュラム委員会のもと、2022年2月10日～3月10日までオンデマンド配信にて開催されました。本学会からは秋田大学の福田雅幸教授が「広範囲顎骨支持型装置によるインプラント治療」について講演されました。こちらも盛会裏に終了いたしました。

さて、本年度の本学会の教育研修会は、佐賀大学の山下佳雄教授のもと2022年8月28日に行われる予定です。メインテーマは本学会としては極めて斬新で「インプラント補綴を改めて学ぶ」であります。広告可能な専門医制度の構築が少しずつ整ってきている中で、専門医機構側は「広告可能なインプラント専門医取得のためには、いくら専門が口腔外科だといっても、インプラント補綴の経験と知識がなければ不可能である。」と明言しています。機構側のそれらの意見を踏まえてのまさに時期を得たテーマであると考えます。多くの会員の皆様の参加を期待しております。

本年度の教育研修会、第47回日本顎顔面インプラント学会教育研修会のご案内を別ページの学会・研修会案内に掲示していますので、ご一読の上奮って参加ください。

◎ 用字用語委員会

用字用語委員会 委員長 松尾 朗

式守道夫前委員長より本委員会を引き継いで2年目となりますが、今年度はICD-11の日本語訳の本学会関連項目のチェックおよび本学会にて出版予定の「顎骨再建とインプラントによる治療指針」の成書に対する用語チェックを行いました。

これらの過程で、骨造成関連用語が関連学会の用語集等にも掲載されているものの、統一されていない点や矛盾点が多々などのご指摘をいただき、是非委員会にて検討できないかとの要望が上がっております。嶋田理事長のご了解もいただき、本年度は骨造成に関連する用語の策定を計画しておりますので、皆さまにも幅広く議論に参加していただければと考えております。是非ご協力お願いいただければ幸いです。

《 第25回 日本顎顔面インプラント学会総会・学術大会報告 》

大会長 長尾 徹／実行委員長 後藤 満雄／準備委員長 宮部 悟

令和3年(2021)年12月11日(土)・12日(日)、名古屋国際会議場において第25回日本顎顔面インプラント学会総会・学術大会を開催させて頂きました。運よく新型コロナ第6波到来の直前で、緊急事態宣言／まん延防止等重点措置を避ける形での開催となりました。感染予防の観点から、早い段階でハイブリッド開催に踏み切ったことで、当初から赤字覚悟で進めてまいりました。さまざまな制約の中での学会でしたが、幸い例年とかわらず演題数は口演発表30題、ポスター発表32題の計62演題、参加者は511名と多くの皆様にご参集いただきました。これも本学会会員の皆様のご支援・ご協力の賜物と厚く御礼申し上げます。

本学会のテーマは「インプラント治療の安全哲学—新型コロナ時代の新たな取り組み—」とし、インプラント治療の安全性の問題に加え、喫煙対策や新型コロナ感染予防にも焦点をあてた企画となりました。学術大会の構成は一般演題に加え、特別講演、招聘講演、教育講演、シンポジウム4題、国際学会PPIS(Pan Pacific Implant Society:環太平洋インプラント学会)として2口演、PPISシンポジウム、さらに日本学術会議の市民公開シンポジウム「口腔疾患の予防・治療・保健教育の場も喫煙防止・禁煙指導などの喫煙対策の場として活用

すべきである」を併催とした多彩な内容となりました。

特別講演では安全推進研究所所長の河野龍太郎先生から「ヒューマンエラー対策の考え方と安全哲学」と題する講演で、人の判断と行動は損得ではなく、人として正しいかどうかで判断することが問題の発生防止と安全につながることを強調されました。招聘講演では小宮山彌太郎先生から「患者に寄り添う」という題で、これまでの長いインプラント治療の臨床経験から患者とのコミュニケーションの時間を惜しまないことの重要性をお話されました。教育講演では福井大学西村高宏先生の職業倫理のお話からインプラント治療医に対する倫理教育の重要性を認識しました。また理事長招聘講演では一般社団法人日本歯科専門医機構理事長の今井 裕先生から本会のトピックスの1つである「日本歯科専門医機構の現状と今後の展望」についてご講演をいただきました。さまざまな専門医が存在する現在の医歯学界において、社会的要請に基づいた専門医制度の構築が必要であること、専門医には客観的基準を設ける必要があること、現在の広告可能5領域に加えて新たな歯科専門領域として5つの分野が候補に挙がり制度設計が議論されていることなど、今後のインプラント歯科専門医の実現に向けて有用なお話をいただきました。

本学術大会はコロナ禍に伴うハイブリッド開催となったことから赤字化が懸念されておりましたが、多方面からの共催とご支援により、なんとか「プラスマイナスゼロ」の収支に収めることができました。コロナ禍での開催にも関わらず多くのご参加をいただいたことは、日本顎顔面インプラント学会のアクティビティを広くアピールする良い機会になりました。

最後になりますが、このような学術集会の開催にご支援をいただきました学会会員の皆様ならびに学会事務局の関係者の皆様に深謝申し上げます。

第25回 公益社団法人
日本顎顔面インプラント学会
総会・学術大会

インプラント治療の
安全哲学

新型コロナウィルス時代の
新たな取り組み

2021.12.11日・12日

会場 名古屋国際会議場
〒456-0036 名古屋市中区東区松田西町1番1号

大会長 長尾 徹
実行委員長 後藤 満雄 準備委員長 宮部 悟

連絡先 日本インプラントセンター株式会社 中東東社内
〒460-0008 名古屋市中区東区2-10-19
名古屋大学歯学部 顎顔面外科
TEL:052-219-5822 FAX:052-219-5823
E-mail:jami25@convention.co.jp

<https://site2.convention.co.jp/jami25>

学術大会ポスター



日本歯科専門医機構理事長 今井 裕先生の理事長招聘講演後のスナップ。
右から瀬戸院一理事、嶋田 淳理事長、今井 裕先生、長尾 徹大会長

《 20th Annual Meeting of Asia Pacific Implant Society (20th APIS) の報告 》

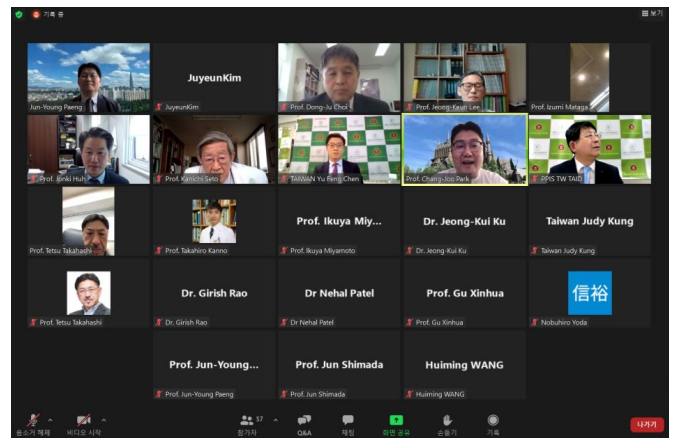
APIS Secretary General 高橋 哲/APIS Correspondent 宮本 郁也

今年で第20回を迎えましたPPIS (Pan Pacific Implant Society) は、今大会より名称が変更されAPIS (Asia Pacific Implant Society) となりました。残念ながら、昨年の台湾大会と同様に現地での開催はかなわず、2022年2月19日に韓国の学会、Winter Implant Focus Meeting of KAOMS (Korean Association of Oral and Maxillofacial Surgeons) と併催という形で、サムスン・メディカルセンターの Jun-Young PAENG 先生が大会長としてwebinarで開催されました。

メインテーマは、"computer-assisted implant dentistry" でした。各国のお国柄を反映した日本ではなかなか見ることのできない素晴らしい発表が、多くありました。例を挙げますと、台湾ではコロナ下での状況を鑑み、仮想現実を用いた歯科大学での実習風景を発表され、先進的な取り組みで感銘を受けました。インドからは、COVID-19感染によってムコール症を併発し、上顎が全壊死した症例に対してインプラントを用いて再建している症例報告は、衝撃的でした。その他の発表も大変レベルの高いものが多く、熱気のコもったディスカッションもweb上で繰り広げられました。

APISに参加している先生方は、顔見知りの先生が多く大変フレンドリーです。将来は、その国をしょって立つような若い

先生方も多く参加されています。日本は、APIS中では確固たる発言力を持ちながらも、残念ながら若い先生方の参加者数が少ないという傾向がみられます。大会は、日本顎顔面インプラント学会の協力のもとwinter meetingを合わせますと毎年日本で参加できる機会があり、国際学会の醍醐味を手軽に味わうことのできる学術集会です。若い会員の皆様にも積極的に参加していただき、国際学会での経験値を上げていただければと思います。



大会時のzoom画面

《 第47回日本顎顔面インプラント学会教育研修会のご案内 》

教育研修委員会 委員長 矢島 安朝/実行委員長 山下 佳雄

日本顎顔面インプラント学会教育研修会の予定をお知らせします。みなさまの参加をお待ちしております。

会期: 2022年8月28日(日) 9:00~16:00

会場: WEB開催+オンデマンド

対象: 歯科医師、歯科衛生士、歯科技工士など(会員、非会員問いません)

参加費: 12,000円(歯科医師以外の学生、留学生は無料)

担当: 佐賀大学医学部歯科口腔外科学講座

申込み: 学会ホームページ (<https://www.jamfi.net/>) よりお申し込みください。

※お申し込み完了すると自動返信メールが登録メールアドレスに送信されますが、「迷惑フォルダ」に振り分けられることが多いので、ご注意ください。

お申し込みが完了したかわからない場合は、info@jamfi.net へご連絡ください。

※専門医、指導医申請・更新申請には本学会が主催する教育研修会の修了証が必要です。

テーマ「インプラント補綴を改めて学ぶ」

講演1 市川哲雄(徳島大学大学院医歯薬学研究部口腔顎顔面補綴学分野)「インプラント治療において、補綴歯科は何を見ているのか」

講演2 堀江伸行(慶應義塾大学医学部歯科・口腔外科学教室)「ボーンアンカーブリッジを選択する際の注意点」

講演3 松下恭之(九州大学大学院 歯学研究院口腔機能修復学講座 インプラント・義歯補綴学分野)「インプラントを用いた可撤性補綴デザイン」

ランチョンセミナー 中山 雪詩(医療法人社団敬愛会 佐賀記念病院 歯科口腔外科)「コンピューターガイドドサージェリーの現在」

講演4 小山重人(東北大学病院顎顔面口腔再建治療部)「広範囲顎骨支持型補綴治療と併発症の管理」

講演5 木津康博(東京歯科大学 口腔腫瘍外科学講座/口腔インプラント学講座)「上顎欠損症例に対するザイゴマインプラントを用いた補綴治療」

《 第26回 日本顎顔面インプラント学会総会・学術大会のご案内 》 Asian Pacific Implant Society (APIS) Winter Meeting in Tokyo併催

大会長 近津 大地 (東京医科大学医学部口腔外科学分野主任教授)

この度、2022年(令和4年)11月26日(土)・27日(日)と2日間
にわたり、第26回日本顎顔面インプラント学会総会・学術大会
を東京医科大学病院で開催させていただくこととなりました。

今回の大会テーマは「磨励自彊 これからのインプラント卒業
教育を再考する」としました。今でこそ歯学部講義の中に口
腔インプラントの卒業教育はあるものの、患者さんの全身状態
を把握し、解剖を熟知したうえでインプラント手術を行うという実
臨床は、卒業教育に大きく委ねられています。また、新専門医
制度を踏まえて、顎顔面インプラント学会における卒業教育も
転換期にあります。口腔インプラントはもちろんのこと、歯科医療
全般に言えることは、常に新しい知識・技術を身につけるべく、
大いに修行して、自ら努め励むことにつきます。本学術大会を
通して、皆様方が充実した二日間となりますよう鋭意準備を進
めてまいります。

学術大会の内容につきましては、特別講演を森中慎也先生(日本大学芸術学部放送学科教授、元札幌テレビ放送アナウンサー)に「今、「リアル」で話すということ」といった内容でお話しいたします。招聘講演はShahram Ghanaati先生(Johann Wolfgang Goethe University Frankfurt教授)に「New bone augmentation method using regenerative medicine」をお話しいたします。また、教育講演は骨免疫学という新たな分野を開拓した高柳 広先生(東京大学大学院医学研究科病因・病理学専攻免疫学講座教授)には「骨免疫学の最前線～インプラント治療にどう活かすか～」についてお話しいたします。シンポジウムにつきましては、「キャダバーを用いたサージカルトレーニングについて—医療安全を見据えたインプラント卒業教育にどのように活かすべきか?—」、「口腔腫瘍外科医から考える広範囲顎骨支持型インプラントについて」、「留学のすすめ—後悔しない人生のために!—」、「広告可能な専門医に向けた新たな目標、方略、評価」を組んでいます。また、ワークショップには、「インプラント治療に必要な骨造成(骨増生)アップデート」を考えています。さらには、本学会ではAsia Pacific Implant Society (APIS) Winter Meeting in Tokyoとして併催する予定です。

11月の開催の時にはCOVID-19感染症が落ち着いていることを願いつつ、現地で活発な意見交換を期待して、数多くの演題と会員の皆様方のご参集を心よりお待ちしております。

【第26回 日本顎顔面インプラント学会総会・学術大会】
メインテーマ: 磨励自彊(まれいじきょう): これからのイン
プラント卒業教育を再考する

1. 会期: 2022年(令和4年)11月26日(土)・27日(日)

2. 会場: 東京医科大学病院

3. プログラム概要(予定)

【特別講演】森中慎也(日本大学芸術学部放送学科教授、元札幌テレビ放送アナウンサー)「今、「リアル」で話すということ」

【招聘講演】Shahram Ghanaati(Johann Wolfgang Goethe University Frankfurt)「New bone augmentation method using regenerative medicine」

【教育講演】高柳 広(東京大学大学院医学研究科病因・病理学専攻免疫学講座)「骨免疫学の最前線～インプラント治療にどう活かすか～」

【APIS Winter Meeting 2022 in Tokyo】シンポジウム 「Current status and prospects for post-graduate education in dental implantology in APIS countries」

【シンポジウム】

シンポジウム1 「キャダバーを用いたサージカルトレーニングについて—医療安全を見据えたインプラント卒業教育にどのように活かすべきか?—」

シンポジウム2 「口腔腫瘍外科医から考える広範囲顎骨支持型インプラントについて」

シンポジウム3 「留学のすすめ—後悔しない人生のために!—」

シンポジウム4 「広告可能な専門医に向けた新たな目標、方略、評価」

【ワークショップ】「サイナスにおける骨造成について」、【一般講演・ポスター】、【ランチョンセミナー】、【スーチャーエキスパートコンテスト】、【展示】

【理事会および運営審議会】11月25日(金)

【総会】11月27日(日)

【市民公開講座】蛭名勝之(一般社団法人東京都新宿区歯科医師会会長) 2022年11月27日(日) シンポジウム 「インプラントにしましょうか?」と言われた時の為にインプラント治療を受けるにあたって知っておきたいこと—地域のインプラント事情—

4. 演題登録および事前参加登録締め切り

※演題登録は本学会員の方に限らせていただきます。学会への入会がお済みでない方は早めに学会事務局にお申し込み下さい。なお、演題登録・参加登録の詳細につきましては、大会ホームページ(<https://jami26th.com/>) 本学会誌にて後日ご案内申し上げます。

5. 大会事務局

【第26回公益社団法人日本顎顔面インプラント学会総会・学術大会 大会事務局】

東京医科大学医学部口腔外科学分野

実行委員長: 長谷川 温(はせがわ おん)

準備委員長: 濱田 勇人(はまだ はやと)

プログラム委員長: 池畑直樹(いけはた なおき)

〒160-0023 東京都新宿区西新宿6-7-1

TEL: 03-3342-6111 jami26@tokyo-med.ac.jp

6. 運営事務局

第26回公益社団法人日本顎顔面インプラント学会総会・学術大会 運営事務局 株式会社JTB 茨城南支店内

〒305-0032 茨城県つくば市竹園2-2-4

TEL: 029-860-2872 / FAX: 029-854-1664

e-mail: mice-tsukuba@jtb.com

《 第3回SASOMI (南アジア顎顔面インプラント学会) の案内 》

理事長:嶋田 淳 渉外委員会:高橋 哲、宮本 郁也

このたび第3回SASOMI(南アジア顎顔面インプラント学会)がインド西部のグジャラート州アーミダバード(Ahmedabad, Gujarat State, INDIA)において、2022年12月21日~23日開催されます。SASOMI(South Asian Society of Oral and Maxillofacial Implantology)は2019年、インドインプラント学会と日本顎顔面インプラント学会の協賛という形で創設されました。設立の目的は、口腔外科、学問をベースとしたインプラント学、研鑽の場とする日本顎顔面インプラント学会の理念を南アジアに展開することです。

第3回SASOMIの大会長は、College of Dental Sciences and Research Centre AhmedabadのDr.Madhukant Shahです。

第3回の企画は①インド側から4名の講師による講演に②Japan boothとして日本顎顔面インプラント学会や日本からの招待講師による研究内容の紹介、③コロナとムコール真菌合

併症による大規模顎欠損をおこした患者の回診、インプラント治療に参加するという企画に、④一般口演も公募されています。一般口演発表は8分の口演に2分の質疑応答です。参加費は12,000円です。

【学会案内】

Call for registration :

Sasomi2020@gmail.com

日本での問い合わせ:厚生歯科
渡辺孝夫あるいは、田畑りか
まで連絡ください。

keiseikai@kosesika.or.jp

電話:047-334-5150

Fax:047-336-4066



《 2022年、2023年インプラント関連学会案内 》

総務広報委員会 委員長 又賀 泉

学会開催予定一覧 (2022年7月~2023年2月)

2022年7月22、23日
第23回日本口腔顎顔面外傷学会総会・学術大会 (立川市)

2022年8月28日
日本顎顔面インプラント学会 教育研修会 (WEB開催)

2022年9月23、24日
第32回口腔内科学会、口腔病理学会、口腔診断学会
(札幌市)

2022年9月23~25日
第52回日本口腔インプラント学会 (名古屋市)

2022年10月1、2日
第42回日本歯科薬物療法学会 (鹿児島)

2022年10月14~16日
AAO Asia Academy of Osseointegration 2022 Taiwan

2022年10月21、22日
第34回(一社)日本小児口腔外科学会総会 (東京都)

2022年11月4-6日
第67回(公社)日本口腔外科学会総会・学術大会
(千葉幕張)

2022年11月26、27日
第26回日本顎顔面インプラント学会、APIS winter meeting
(東京医大)

2022年12月21~23日
第3回SASOMI国際会議 (インド、アーミダバード)

2023年1月26、27日
第41回日本口腔腫瘍学会 (岡山)

2023年2月18、19日
日本口腔インプラント学会第42回関東・甲信越支部学術大会
(松本)

「常置委員会・委員長・委員」一覧
(2021年12月現在)

● **専門医制度委員会**

委員長 高森 等
副委員長 藤井俊治
委員 加藤仁夫、河奈裕正、矢島安朝、立川敬子、
廣田 誠、武知正晃

● **専門医資格認定審査会**

委員長 福田雅幸
副委員長 野口 誠
委員 矢郷 香、松尾 朗、小林正治、菅野貴浩、
山下佳雄、金子貴広

● **研修施設資格認定審査会**

委員長 日比英晴
副委員長 栗田 浩
委員 長尾 徹、福田仁一、柳井智恵

● **総務広報委員会**

委員長 又賀 泉
副委員長 矢郷 香
委員 石垣佳希、小林正治、宮本郁也

● **定款(会則)検討委員会**

委員長 福田仁一
副委員長 松尾 朗
委員 藤井俊治、矢郷 香、山下佳雄

● **財務委員会**

委員長 長尾 徹
副委員長 又賀 泉
委員 佐藤淳一、矢郷 香、小倉 晋、黒岩裕一朗

● **教育研修委員会**

委員長 矢島安朝
副委員長 瀬戸皖一**、山下佳雄
委員 福田雅幸、栗田 浩、城戸寛史、廣安一彦、
佐藤 聡、武知正晃

● **雑誌編集委員会**

委員長 野口 誠
副委員長 又賀 泉
委員 加藤仁夫、福田雅幸、立川敬子、
黒岩裕一朗、小倉 晋、小山重人、古谷義隆、
関根秀志、山下佳雄

● **用字用語委員会**

委員長 松尾 朗
副委員長 立川敬子
委員 塩田 真、佐藤 聡、小倉 晋、近津大地、
本間慎也

● **渉外委員会**

委員長 高橋 哲※
副委員長 菅井敏郎
委員 河奈裕正、加藤仁夫、又賀 泉※、
宮本郁也※、北村 豊

● **社会保険委員会**

委員長 河奈裕正
副委員長 外木守雄
委員 近津大地、川本義明、廣田 誠、宗像源博

● **学術委員会**

委員長 加藤仁夫
副委員長 佐藤淳一
委員 河奈裕正、城戸寛史、矢島安朝、高橋 哲、
関根秀志、岡本俊宏、植野高章

● **倫理委員会**

委員長 福田仁一
副委員長 高森 等
委員 佐藤淳一、柳井智恵、河奈裕正、
永松 榮司(弁護士)

● **医療委員会**

委員長 藤井俊治
副委員長 春日井昇平
委員 矢島安朝、立川敬子、金子貴広

● **薬剤関連調査委員会**

委員長 松尾 朗
副委員長 河奈裕正
委員 矢郷 香、菅野貴浩、飯野光喜

● **脱タバコ社会実現委員会**

委員長 長尾 徹
副委員長 福田仁一
委員 河奈裕正、松尾 朗、菅井敏郎、濱田 傑

● **研修カリキュラム委員会**

委員長 藤井俊治
副委員長 矢島安朝
委員 高橋 哲、高森 等、福田仁一、喜久田利弘、
苅生田整治

● **賛助会員制度促進委員会**

委員長 高橋 哲
副委員長 菅井敏郎
委員 福田仁一、矢島安朝、立川敬子、小倉 晋

● **診療ガイドライン作成委員会**

委員長 菅野貴浩
副委員長 柳井智恵
委員 福田雅幸、堀江伸行、立川敬子、又賀 泉、
小山重人

● **広告のできる専門医推進委員会**

委員長 瀬戸皖一
副委員長 藤井俊治
委員 春日井昇平、高森 等、福田仁一、矢島安朝、
矢郷 香、菅野貴浩、福田雅幸、日比英晴

● **感染症対策特別委員会**

委員長 瀬戸皖一
副委員長 春日井昇平
委員 藤井俊治、矢島安朝、廣安一彦、関谷秀樹

※ APIS、SASOMI 渉外委員兼務

** 瀬戸皖一: 4学会合同教育研修委員会担当

「賛助会員」一覧
(2021年3月末日現在)

オカダ医材株式会社
オリパステルモ バイオマテリアル株式会社
クインテッセンス出版株式会社
ストロマン・ジャパン株式会社
株式会社デンタリード

デンツプライシロナ株式会社
日本ストライカー株式会社
ノーベル・バイオケア・ジャパン株式会社
株式会社プラトンジャパン
株式会社モリタ

(五十音順)

事務局からのお願い

<年会費納入に関して>

年会費は自動振替ご登録の方をのぞき、毎年下記のサイクルで請求書をお送りしています。

●第1回目:1月下旬～2月下旬

●第2回目:5月中旬～7月上旬

4月の新年度以降でないとい納入できないという方もいらっしゃるため、この時期にお送りしています。1回目で納入いただいていない方のみに「再送」というかたちで送付。

●第3回目:8月

1、2回目で納入いただいていない方のみに「再々送」という形で送付しています。

※コンビニ決済もできるようになりました。ただ、コンビニ決済には納付期限がありますので、必ず期限内に納付ください。また、郵便振替もしくはコンビニ決済となりますので、重複してお支払いにならないようご注意ください。

※できるだけ自動振替の登録をお願いいたします。ご希望の場合は事務局へメールでご連絡ください。

info@jamfi.net

(件名を「自動振替」としてください。)

※このところ、勤務先や転居先の登録がされておらず「案内が届いていない」という方も見受けられますので転勤や転居された場合、必ず変更申請を提出ください。

(ホームページより用紙をダウンロードするか、メールでお送りください。あるいは、事務局へFAXください。)

※長期未納は会費規定に基づき退会扱いとなります。会費規定に下記付則がありますので、ご注意ください。

公益社団法人日本顎顔面インプラント学会 会費規程 (付則)

会費納入期限から1年を経過した時点で会費未納の場合は、事務局からの文書による通知を行う。その後1年間会費が納入されない場合には学会雑誌の発送を停止する。さらに通算3年納入が見られない場合は、定款第7条2項(3)に基づいて退会とする。

なお、再入会を希望する退会者に対しては、過去の未納分の決済を原則とし、これを理事会で審議後再入会を承認する。

この規程は、平成28年12月4日から施行する。

※退会される場合は電話では承りません。台帳に残すためにメールもしくはFAXにてその旨ご連絡ください。特に様式はございません。

<メールアドレス登録のお願い>

当会では、メールニュースとしてタイムリーな情報やご案内を差し上げています。

年に数回発行していますが、現在受信されていない方は是非ご登録いただきますようお願いいたします。

登録先E-mail : info@jamfi.net

(件名を「メールアドレス登録」としてください。)

<事務局の業務についてのお願い>

当会事務局は、少人数で運営されています。また、コロナ禍の感染防止対策から在宅勤務や事務所滞在時間の短縮を行っております。不在でお電話いただいても対応できないなど、ご迷惑をおかけしますがご理解いただきご協力のほどよろしくお願いいたします。

お問い合わせにつきましても電話ではお受けできません。

特に、専門医関連の問い合わせを電話でいただくことがありますが、正確な回答を差し上げるため、e-mailでおこなっておりますのでご理解のほどよろしくお願いいたします。

NEW

公益社団法人 日本顎顔面インプラント学会

顎骨再建とインプラントによる治療指針
— 広範囲顎骨支持型装置治療マニュアル —

公益社団法人日本顎顔面インプラント学会編集による「顎骨再建とインプラントによる治療指針— 広範囲顎骨支持型装置治療マニュアル—」が発行されます。

本書の特徴は全編5章からなり、従来みられなかった顎骨再建方法について総論的に解説され、さらに再建顎骨に歯科インプラントを組み合わせた機能的再建、保険導入された広範囲顎骨支持型装置治療の治療方針について、豊富な臨床資料に基づいて解説されています。

第1章 顎骨再建とインプラントによる機能的再建 顎骨再建方法とインプラント治療

総説・解説 顎骨再建方法とインプラント治療

顎骨再建法の分類、口腔がん切除後欠損に対する再建法、インプラント同時埋入か二期的埋入か？

- 1 保険収載された「広範囲顎骨支持型装置埋入手術」と「広範囲顎骨支持型補綴」の経緯
付録 令和4年度診療報酬改定による広範囲顎骨支持型装置および補綴治療についての改定
- 2 広範囲顎骨支持型装置の適応 広範囲顎骨支持型装置の適応例と問題点
- 3 広範囲顎骨支持型装置の診察・検査と診断
- 4 治療計画の立案
- 5 顎骨再建手術と広範囲顎骨支持型装置(インプラント体)埋入手術の周術期管理
- 6 顎骨再建と広範囲顎骨支持型装置および補綴治療における倫理規範:医療安全と医療倫理(総説・解説)

第2章 各論:広範囲顎骨支持型補綴

- 1 広範囲顎骨支持型補綴装置の選択
- 2 オーバーデンチャーのアタッチメントの選択と注意点
- 3 補綴的機能評価 咀嚼機能検査

第3章 各論:唇顎口蓋裂・先天奇形/先天多数歯欠損への広範囲顎骨支持型装置および補綴治療の適応

- 1 口唇裂・口蓋裂の包括治療

- 2 口唇裂・口蓋裂に伴う広範囲顎骨欠損患者への骨造成

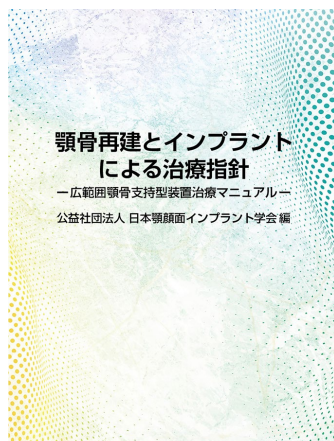
- 3 顎裂部への広範囲顎骨支持型装置および補綴の応用による形態・機能回復とその長期予後
- 4 先天性多数歯欠損への広範囲顎骨支持型装置および補綴の適応
- 5 口唇裂・口蓋裂患者の顎裂部への広範囲顎骨支持型装置および補綴治療の注意点

第4章 各論:骨移植による顎骨再建症例への広範囲顎骨支持型装置および補綴治療の適応

- 1 上顎欠損と下顎欠損の分類
- 2 血管柄付き骨移植による顎骨再建と広範囲顎骨支持型装置および補綴治療
- 3 血管柄付き骨移植以外の硬性再建と広範囲顎骨支持型装置および補綴治療(インプラント治療)
- 4 骨吸収抑制薬を投与されている患者への広範囲顎骨支持型装置および補綴治療(インプラント治療)
- 5 機能的上顎再建
- 6 その他の疾患への適応:外傷、骨髄炎などへの広範囲顎骨支持型装置および補綴治療(インプラント治療)の適応について

第5章 広範囲顎骨支持型装置および補綴治療後に関連して発生する併発症とその管理

- 1 インプラント体周囲組織とインプラント上部構造のリコール・メンテナンス(機械的および生物学的不具合とその対応)
- 2 外科的・補綴的治療後の不具合とその対応

顎骨再建とインプラントによる治療指針
— 広範囲顎骨支持型装置治療マニュアル —

- 【仕様】 A4版 260ページ カラー
 【発売日】 2022年8月25日
 【価格】 本体価格 10,000円(税込み11,000円)
 【出版元】 (有)ゼニス出版

※会員特別価格:会員価格はおひとり1冊10,000円(税・送料込み)となります。

詳しくはホームページをご覧ください。
<https://www.jamfi.net/>



編集後記



2021年12月に開催されました名古屋での総会は、一昨年と同様COVID-19の感染状況を鑑み、ハイブリッド形式での開催となりました。慣れない形式での大会準備は、大会長の長尾先生や準備委員長の宮部先生はじめスタッフの方々の大変なご苦労があったと思います。また2022年に入り、多くの人が予想だにできなかったウクライナでの戦争が起こりました。疫病や戦争など歴史の教科書でしか見たことのないようなことが、現実として我々の生活を直接的、間接的にも脅かしています。

インプラント治療は、大変有意義な治療であることは論を俟ちません。しかし、治療によって思いもよらなかったことが起こることも経験します。臨床医学の場合、不測の事態の兆候は以前から存在し、よく考えると不測ではない場合が多く見られます。今大会のテーマでありました“インプラント治療の安全哲学“は、そのような文脈で誠に時宜にかなったものと思いました。

日本顎顔面インプラント学会の会員の皆様は、さまざまな症例を経験されている先生が多くおられます。貴重で重要な症例を科学的に眺めれば、悪い結果に結びつくような兆候が早期に分かる場合も多く、また現時点で最善とされる解決方法も、見つけやすいと思います。会員の皆様には、日常臨床で経験される症例を積極的に学会発表や雑誌に投稿していただき、議論を交わしていただければと思います。このような地道な活動が、国民が享受できる安心安全なインプラント治療を確立していくために重要なエビデンスを与えてくれるものと考えます。改めて会員の皆様のご協力をお願い申し上げます。

(宮本郁也)



【学会事務局】

公益社団法人 日本顎顔面インプラント学会事務局

〒108-0014 東京都港区芝5-29-22-805
TEL : 03-3451-6916 FAX : 03-5730-9866
E-mail : info@jamfi.net